2026年
7月

草の根

BULLETIN OF THE AICHI COUNCIL AGAINST A&H BOMBS

発行 原水爆禁止愛知県協議会
発行人 佐竹康行
〒461-0004
名古屋市東区葵1-22-26
Tel(052)932-3219
Fax(052)931-2651
gensuikyo@lime.ocn.ne.jp
毎月1回 6日発行
月40円/年間480円

被爆81年 2026年あいち平和行進 大きく成功！

参加者	のべ5,317人
ペナント	1,000本
折り鶴	31万羽以上
署名	466筆
募金	1,013,291円
世界大会の支持賛同(自治体)	32

6/26 現在

◆5月31日（日）
新城市での集会で、奥三河九条の会の前澤さんは「しあわせな毎日がずっと続くように願って今日の行進をしていきたい」とあいさつし、被爆者の黒田さんは「当時、爆心地から2キロにいた。熱線と猛烈なガラスの破片を浴びた。偶然に畳が覆いかぶさっていなければ、この世にいなかったかもしれない」と語りました。その後、設楽町、豊根村、東栄町と移動し、平和行進を行いました。
碧南市・高浜市、西尾市でも平和行進が取り組まれました。

◆6月1日（月）
豊橋市役所の集会で全国通し行進者の尾崎庸美さんが「長崎からきた被爆2世です。被爆者の思いを背負って歩いていきたい」とあいさつし、議会から「核兵器、戦争のない社会を願っている」と激励がありました。
幸田町では駅前でスタンディングを行い、沿道から応援の声が寄せられました。

◆2日（火）
岡崎市の出発集会では中根市議会議員が「各地で『九条を守る』という声が上がっている。平和がなければ何もすることができない」と、力強く訴えました。
豊田市では、昨年参加した高校生が、今年は大学生となり原爆の火を持って先頭で行進をリードしてくれました。
みよし市でも平和行進が取り組まれました。
◆3日（水）
行進は台風のため中止でしたが、警報解除後に刈谷市と知立市に訪問し、その後、地元からのペナント、折鶴の「授与式」を各市の庁舎前で行いました。
◆4日（木）
知多市勤労文化会館前の出発集会で、森川実行委員長が「知多半島でまたひとつ、東海市が平和宣言をあげました。南知多町も、平和宣言をあげることを知りました」とあいさつし、行進がスタートしました。
東海市では、坂市議会議員から「昨年平和宣言をあげることができた。毎年沖縄に中学生を派遣してきました。いっそう平和行政進めるために頑張りたい」とあいさつがありました。
◆5日（金）
和太鼓とうたごえで開始された瀬戸市の集会で、瀬戸反核センターの竹元さんから400筆の署名が届けられました。
尾張旭市では、沿道で行進を待つ人もいて、募金や署名、折り鶴をいただきました。その後、守山区を行進しました。
豊明市、日進市、長久手市でも集会と平和行進が行われ、初めて参加した人から「みなさんと歌いながら歩けたことは、とても良かったです」との感想がありました。
◆6日（土）
小牧市役所からスタートし、小牧基地前の集会では、すずかけ作業所の仲間のみなさんが戦争体験を学び、想いを語りました。95才の利用者さんは、三重県津での空襲、栄養失調などで8人兄弟の内4人が戦争で亡くなった。戦争はいけないし、憲法は守られないといけないと話しました。
勝川駅では、高蔵寺分屯基地、春日井駐屯地のコース、豊山町の表敬訪問のコースが合流し、それぞれ報告がありました。
わかやま市民生協リレー行進者のスパシアノさんが「世界、国内で余談を許さない状況だが、声を上げる機会をもらったと思い、頑張っていきたい」とあいさつし、春日井市役所まで行進しました。
知多半島では常滑網の目行進が行われました。
◆7日（日）
名古屋市内14コースで平和行進が行われ、栄のミニスポーツ広場に集まり、ピースアクションが行われました。
折鶴行進では、被爆者や学生を先頭に約250人が、ミニスポーツ広場から大須通りを経由して上前津までパレードしました。大須商店街では多くの人々の注目を集め、手を振ってくれる人、カメラを向ける人など、平和の願いを共有しながらの行進となりました。

◆8日（月）
岩倉市役所の出発集会では、丹羽洋子愛友会副理事が被爆体験を語り「被爆の話をすることを使命に生かしてもらっていると感じています」と話してくれました。
千秋病院では約150人の職員や利用者さんたちに歓迎され集会が行われました。
江南市役所前終結集会では、金子さよこさんが被爆体験を語り「なんとか生き延びて今日まできた。一緒に運動していただけるようにお願いしたい」と訴えました。
大口町役場に表敬訪問し、地元から折り鶴を受け取りました。
◆9日（火）
津島市役所で出発集会を行い、敷地内を副市長、議長とともに歩きました。
愛西市でも敷地内を市長代理と議長が揃って行進し、手を振って見送りをしていただきました。
稲沢市役所では市議会議長から「我が国は、唯一の戦争被爆国として平和を訴える責任がある。住民の命と平和を守ることが自治体行政の役割の一つ」とあいさつがありました。
蟹江町は平和行進、弥富市、飛島村には表敬訪問を行いました。
◆10日（水）
名古屋市役所駐車場で出発集会を行い、清須市

日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名

県内171,773筆

2026年6月10日 現在

に向かって出発しました。
清須市では、副市長、議長、議員が参加し、市民と行政が一体となる平和行進となりました。
北名古屋市では、帰宅する小学生、中学生から、手を振ったり、応援の声があがったりと元気づけてくれました。
あま東部コースでは、鈴木大治町長が出発集会であいさつし、公民館前から役場まで行進団とともに歩きました。
愛知県と名古屋市に表敬訪問し、行政側から啓発や継承に向けたとりくみが紹介され、愛知県も名古屋市も、一歩一歩前進していることを確信できる訪問となりました。
◆11日（木）
扶桑町役場での出発集会は、鯖瀬町長、議長から激励のあいさつがあり、役場入り口までともに行進しました。

NPT再検討会議・愛知県代表団 参加者の感想 part 2

◆三浦　コト子（新婦人尾張旭支部）
どうか皆さん早く一年でも早くこのNPT会議を終わらせるために「叡智」を出し合いましょう。本当簡単です。非保有国が今後核を持たない、保有国は速やかに核を棄てること。何をためらっているのでしょう。終末時計が示すとおり領土を奪い合っている時間は残されてはいません！保有国の皆さん！未来を想像してみましょう！人類が絶えてしまってもよいのでしょうか！人類が絶えてしまう前に地球上から宇宙上から核を廃絶しましょう！
過去の第二次世界大戦で「核」という恐ろしい兵器を人類は創り出してしまいました。81年苦しんできた「ヒバクシャ」、改めて全世界の人がこんなバカな兵器を更に更に発展させておなじ種族が互いに殺し合う、壊し合う、現実をみるにつけ「なんて人間は愚かなんだ」と思いませんか！でも捨てたものではありません。賢者は「核をなくそう」と言っています。皆さん未来を想像しましょう。子や孫に美しい地球を遺しましょう。

◆伊藤　剛（愛知県保険医協会事務局）
核兵器廃絶は、世界の多数と確信
初めて、NPT再検討会議に参加しました。再検討会議を傍聴して、核兵器廃絶は、世界の多数の声であることがよくわかりました。
核兵器保有国がお互いに核軍縮の義務を果たさない責任をなすりつけあうなか、多くの非核保有国が核保有国に対して，核軍縮の義務を果たせと迫る構図は、日本にいるときには想像がつかないものでした。対照的に、日本政府のあまりにも情けない姿には、怒りを通り越して呆れてしまいました。
国連本部の本会議場には、連日、多くの傍聴者が訪れており、私たちの運動が世界とも繋がっていることを実感しました。
核廃絶に向けて、日本政府、日本の政治を変えることが今何よりも重要です。日本に帰ってからもそのために力を尽くします。

◆今井　悠太（医療法人名南会事務局）
今回初めてNPT再検討会議原水協代表団に参加しました。
世界中の国や団体、個人が原子力の技術をどのように扱うのか話し合って国際条約としての取り決めを作り上げるとても貴重な“場所”を、NPT再検討会議の傍聴や様々なイベントの参加を通して見学させてもらいました。
私は医療に携わるものとして、地域の健康を考え活動することと同時に多くの尊いいのちが失われる戦争と核兵器に反対の立場を貫く姿勢を大切にしています。人々がいつでも安心して医療にかかれる社会は戦争が起こらず世の中が平和であることが前提で成り立つものだからです。
そして次に、今回の経験の中で改めて認識したことを書きます。原子力の技術は核兵器としていのちを奪うことも、がんの放射線治療の様にいのちを救うこともできます。物や道具を「なんのために（目的）」「どのように（方法）」使うのかは人間が自分で考えて皆と話し合って決めるしかありません。一人ひとりが常に平和を望み誰かの幸せを願ってるからこそ、私たち医療従事者は誠実に患者さんと向き合えるし、本気で地域の健康を守ることができるのだと思いました。平和のために声をあげて実際に行動することは勇気が必要でなかなか難しいことなのかもしれません。
だから、まずは「戦争の無い平和な世の中になってほしい」「誰かに幸せになってほしい」と素直に願うことから始めれば良いと私は考えています。
その気持ちや思いは必ず周囲の人々に影響を与え、少しずつ平和な社会に近づくはずです。

原発なくす愛知の会 総会・記念講演を開催

6月13日、原発なくす愛知の会の総会が民主会館にて行われました。原発なくす愛知の会は、２０１８年に原発ゼロを目指して、幅広い団体、個人が集まり結成されました。一時活動が停止していましたが、２０２４年の南海トラフ地震臨時情報で浜岡原発の危険性があらためてクローズアップされ、それをきっかけに活動を再開しました。
総会では、事務局から再開後の経過報告として、中電本社への申し入れや現地調査、ニュースレターの発行などを行ってきたことが報告され、そんな中、２０２６年1月に基準地震動データが捏造されてたことが明らかになり、会社がリスクを過小評価する方向でデータを偽造することがあり得ること、それを原子力規制委員会は見抜けないことが判明し、今後、中部電力が原子力事業者としての資格がないことを広く県民に知らせるとともに、原子力規制委員会による安全審査のありかたと体制の抜本的な強化を求めて行くことが提起されました。
その後、記念講演として日本科学者会議の越路南行さんが、基準地震動・断層・液状化の問題を科学者の視点から詳しく解説してくれました。

ヒロシマ・ナガサキデー国際共同行動（平和の波）

核兵器の使用・威嚇を許さず、核兵器全面禁止・廃絶、戦争反対、大軍拡反対を共通の目標として、自国政府にTPNWへの参加を求める活動を、全国、全世界の草の根で取り組みましょう。

行動期間：8月3日から8月9日
※世界大会の開催期間

平和の波
PEACE WAVE
FRIEDENSWELLE
VAGUE DE PAIX
OLA DE PAZ
ВОЛНА ЗА МИР
和平的浪潮
موجة السلام